

# 芸術科（音楽）音楽Ⅰ 学習指導案

平成30年11月22日  
島根県立松江東高等学校  
授業者 内藤永嗣

## 1 題材名

能の魅力味わおう～「間」の効果を中心に～

## 2 題材の目標

能の音楽について、音楽の特徴と表現上の効果の関わりに着目して聴く活動をとおして、能の場面や人物の心情とのかかわりを理解するとともに、そのよさや美しさを味わって鑑賞する能力を養う。

## 3 題材設定の理由

### (1) 題材について

芸術科音楽Ⅰの鑑賞では、我が国や諸外国の様々な音楽を聴き、それぞれの音楽がもつよさや美しさなどを味わう鑑賞の学習活動を通して、音楽体験を豊かにし、鑑賞しようとする意欲を育てるとともに、創造的な鑑賞の能力を伸ばすことをねらいとしている。また、我が国や郷土の伝統音楽の特徴を理解して鑑賞する能力を育てることも求められているが、個人的にも島根県の高校全体としても我が国の伝統音楽への取り組みはまだ研究の余地があると考え、題材として設定することにした。

西洋音楽ではあくまで音が音楽の主役である。これに対し我が国には、例えば庭園に水琴窟を置くように、音だけでなくその背後にある静寂を同時に味わう感覚がある。静寂が音楽表現の主役同然になる場合さえある。この静寂が「間」であり、伝統音楽の特徴の一つといえる。この「間」の音楽的価値がわかると生徒の音楽観は大きく広がるであろう。本題材の能「道成寺」の中の「乱拍子」の場面は、長大な「間」を含んで舞が進められる場面で、「間」の音楽的な効果が顕著に表れた例である。またそれに続く「急の舞から鐘入り」の部分は、力強い鼓の音、空間を裂く笛の音、多様な掛け声といった、強奏の音楽表現が続き、能の激しい一面を感じられる場面である。これらふたつの場面のコントラストは、それぞれの場面の良さをお互いに引き立て作品全体として非常に魅力あるものにしており、生徒が能そのものに興味関心を抱くきっかけになることも期待できる。

### (2) 生徒について

【個人情報保護のため省略】

### (3) 指導にあたって

様々な要素が関連し合って形づくられている能の音楽の中でも、本題材では、特に「間」という無音の時間が生み出す緊張感に注目し、音の多さや強さには無い音楽表現の意味を考え、感じ取らせたい。それによって、我が国の伝統音楽の特徴をより深く理解させることができると考えた。その理解が創造的な鑑賞に結びつくよう、適宜、簡易な体験を取り入れるなどして指導していきたい。また、「間」の醸し出す特質や雰囲気を知覚感受するために、物語の推移を追いながらシテの心情に思いを巡らすなどしてより深い学習を促したい。さらに、音楽上の「間」から発展し、日常生活にある様々な「間」に視野を広げていくことで、我が国で育まれてきた「間」の感覚一般についても、興味を持つきっかけにできればと考えている。

## 4 学習指導要領とのかかわり

### (1) 本題材で指導する事項

学習指導要領 指導事項 B鑑賞

- ア) 声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。
- イ) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞すること。
- エ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。

### (2) 取り扱う主な音楽を形づくっている要素

間

## 5 教材

能「道成寺」 作者不詳

## 6 評価規準

### (1) 領域・分野と評価の観点との関連

	ア) 音楽への関心・意欲・態度	エ) 鑑賞の能力
鑑賞	○	○

### (2) 題材の評価規準

ア) 音楽への関心・意欲・態度	エ) 鑑賞の能力
①能の音楽のもつ基本的な特徴を知るとともに、題材作品のあらすじを理解して鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②「間」によって生み出される表現上の効果に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①「乱拍子」に使われている「間」を知覚し、特質や雰囲気を感じている。 ②知覚・感受しながら能の音楽の特徴を理解し、価値を考えたりして、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

## 7 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動 (○ねらい・学習活動)	教材	評価規準	評価方法
1	○能の音楽のもつ基本的な特徴を知るとともに、題材作品のあらすじを理解する学習に主体的に取り組むことができるようにする。 ・「道成寺」より「急の舞」を視聴し気付きや感想を話し合う。 ・感じたことの根拠が音や音楽のどんな特徴によるものかを話し合う。 ・ダイジェスト版により「道成寺」の物語の推移を知る。	1 「急の舞」 2 「道成寺」ダイジェスト	ア①	生徒観察 発言聴取
2 (本時)	○「乱拍子」に使われている「間」を知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受することができるようにする。 ・「道成寺」の「乱拍子」を視聴する。 ・シテの動作を簡易的に体験することで、長大な間を知覚・感受する。 ・「乱拍子」「急の舞」「鐘入り」を連続で視聴する。 ・知覚感受したことをもとに、シテの心情をグループで考える。 ・間について語られた言葉を知り、曲想を味わいながら「乱拍子」を鑑賞する。	1 「乱拍子」 2 「乱拍子」「急の舞」「鐘入り」を連続で	ア② エ①	生徒観察 ワークシート
3	○知覚・感受しながら能の音楽の特徴を理解し、価値を考えたりして、よさや美しさを創造的に味わって聴くことができるようにする。 ・二つの場面をもう一度視聴し、「道成寺」の音楽について、声や楽器の音色、速度、「間」などを中心として、その特徴を知覚・感受し、楽曲や演奏のよさや美しさについて自分なりの意見をもつ。 ・日常生活にある「間」について意見交換する。 ・批評文を書き、発表する。	1 「乱拍子」「急の舞」「鐘入り」を連続で	エ②	生徒観察 発言聴取 ワークシート



### エ①

十分満足できると判断される生徒の姿の具体例	「間」ならではの表現を根拠に、シテの心情をストーリーと関係づけて解釈している。
おおむね満足できると判断される生徒の姿の具体例	たっぶり「間」をとった表現を根拠に、シテの心情を解釈している。
支援を要すると判断される生徒の姿の具体例と支援	「間」の雰囲気が知覚感受しにくい生徒に対しては、活動に集中しやすいように支援する。

#### (4) 授業研究の視点

- 日本の伝統的な美に視野を広げていく上で、このような題材、授業構成や手立ては有効だったか
- 馴染みの薄い表現手段をとる芸術作品にでも、生徒間で感想の共有をしていくことで鑑賞が深まることが理解できたか